

埼玉県・オハイオ州スカラシップ<語学・大学留学コース>

令和3年度派遣レポート3月「国際イベント及びアウトリーチについて」

令和3年度奨学生 塚林光ジョナサン

インターナショナルナイト

フィンドレー大学ではさまざまな国籍の学生が集まり、歌や踊り、詩の朗読といったパフォーマンスを行うイベントが開催されます。過去数年はコロナ禍により、オンラインで開催されていましたが、今年度からは、大学関係者に限定しての開催となりました。日本人留学生以外にも、南アジアやアフリカなど、多くの学生が参加し、制限がありながらも盛況のうちに終わりました。このイベントは、参加している外国人学生が自国の文化を共有でき、異文化の中で暮らす自分のアイデンティティをより強いものに出来るものだと感じました。



コミュニティアウトリーチ活動

ENIN350- English for Specific Purposes (和訳：集中英語プログラム-特定目的のための英語) は英語を利用して母国や母語、自文化をフィンドレー大学の学生や地域コミュニティに紹介することを目的とした講義です。通常の講義と比べ、担当教員は一方向的に教えるよりも、場を設ける、学生の興味のあるエリアで活動出来るようにするマネージャーとしての役割があります。私を含め、3人の日本人留学生と2人のバングラデシュ人留学生、1人のインド人留学生が参加しています。私は前学期から受講しており、幅広い層に日本の文化や日本語についてプレゼンテーションや遊びといったアクティビティを通して紹介してきました。

3月には二度、フィンドレー市内の小学校を訪れ、小学校が放課後に行うメンタリングプログラムに参加しました。私たちは地域のボランティアの方々と一緒に自文化の遊びやあいさつの仕方、食文化などを教えました。児童たちは楽しんでいる様子で、参加したボランティアの方々からも質問が飛び交いました。また子供向けのプログラムとは別に、市の図書館やキャンパス内の施設を借りて一般に向けたプレゼンテーションも行いました。

それぞれの活動において、参加者の年齢層や興味に合わせたプレゼンテーションを行う必要があります。そのため、イベントの都度手直しを行う必要があります。また、他の留学生とともにを行うため、入念な打ち合わせが必要になります。



大学内での一般に向けてのプレゼンテーション